

2024年4月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第232号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2024年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆個別相談について

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会の個別相談は日常的に実施しています。個別相談では、競争的研究資金の獲得支援（共同研究機関の紹介、提案内容の検討、提案書のブラッシュアップ）、事業化支援などを行っています。

（連絡先）

事務局長 岩佐精二

E-mail: npo-tokai\*ab.auone-net.jp（\*を@に書き換えてください）

電話：052-789-4586

.....

2. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆食料安全保障と不測時対策 ～いざという時の備えと法制化～（ウェビナーのご案内）

本フォーラムでは、食料サプライチェーンの各段階の視点から、日本の食料安全保障についての考え方や課題、そして不測時の対応に関連する論点をお示しいただいたうえで、不測時対策の望ましい仕組みやあり方について議論したい。

開催日時 2024年4月16日(火) 14:00～17:00

会場 Zoom ウェビナー開催

参加費 無料

申込 URL [https://zoom.us/webinar/register/WN\\_nQD22QRCRO-uNLrGrVpU5g](https://zoom.us/webinar/register/WN_nQD22QRCRO-uNLrGrVpU5g)

<https://www.nochuri.co.jp/event/event-34445/>

.....

3. 農林水産・食品分野の公募情報

【研究開発関連】

☆国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター：「令和6年度スタートアップ総合支援プログラム(SBIR 支援)」

☆独立行政法人日本学術振興会：「令和6(2024)年度科学研究費助成事業（研究活動スタート支援）」

☆独立行政法人日本学術振興会：「令和6(2024)年度科学研究費助成事業（国際共同研究加速基金（海外連携研究）」

☆JST：「研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム（START）令和6年度プロジェクト推進型 SBIR フェーズ1 支援」

- ☆JST：「2024年度 先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）」
- ☆JST：「2024年度 戦略的創造研究推進事業 ALCA-Next」
- ☆JST：「2024年度 ASPIRE-米国 NSF Global Centers バイオエコノミー領域 共同研究提案の募集」
- ☆JST：「2024（令和6）年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）実装支援（返済型）」
- ☆経済産業省：「令和6年度 成長型中小企業等研究開発支援事業」
- ☆JST：「2024年度 先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）における日英共同研究提案の募集」
- ☆NEDO：「2024年度 脱炭素社会実現に向けた省エネルギー技術の研究開発・社会実装促進プログラム」
- ☆NEDO：「2024年度 木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業/木質バイオマス燃料（チップ、ペレット）の安定的・効率的な製造・輸送等システムの構築に向けた実証事業」
- ★その他

【研究開発関連以外】

- ☆農林水産省（農林水産技術会議事務局 筑波産学連携支援センター）：「令和6年度「知」の集積による産学連携推進事業のうちバイオエコノミー推進人材活動支援事業」

上記、各事業及びプログラムの詳細な情報については東海生研 HP をご覧ください。

東海生研ホームページの NEWS（お知らせ）の URL <https://www.biotech-tokai.jp/>  
 .....

5. その他の情報

(1) 新技術情報

☆害虫関係

- イネのしいな症状を発生させるイネカメムシの加害時期と殺虫剤の散布適期

三重県内の中晩生品種のイネでは、イネカメムシの加害が原因と考えられる不稔症状や、斑点米の発生が増加しています。イネカメムシによる不稔症状および斑点米の発生を抑えるための殺虫剤の散布適期は、(1) 出穂期直後に 1 回目の散布 (2) その 2 週間後（収穫 3 週間前）に 2 回目の散布を行います。

- ・三重県農業研究所 HP：

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001090376.pdf>

☆品質評価関係

- ご飯のおいしさを表す言葉をリスト化しました

－ 米飯の官能評価用語体系の構築に向けて －

農研機構食品研究部門は伊藤忠食糧株式会社と共同で、米飯の食味や食感を表す言葉を

広く収集・整理して、約 100 語から成る用語リストを作成しました。このリストは、さまざまな米飯の品質を詳細に評価する際や米の品種や炊飯方法などによるおいしさの違いを具体的に伝える際の参考資料として使うことができます。今後、辞書のように使える「米飯の表現体系」として展開する予定です。

・農研機構 HP:

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nfri/159423.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nfri/159423.html)

☆災害対応関係

○令和 6 年能登半島地震における農業被害の 復旧・復興からの参考技術情報

農研機構では、農林水産省と連携し、令和 6 年能登半島地震による農業関係の被害から迅速に復旧・復興をはかるべく、農研機構の有する研究成果の中で参考となる技術面の情報について、参考技術情報として整理し、ここに紹介いたします。これらの技術情報が農業被害からの復旧・復興に少しでもお役に立てば幸いです。

・農研機構 HP:

<https://www.naro.go.jp/disaster/ishikawa202401/index.html>

.....

編集後記

2024 年度が始まりました。新たな環境で仕事をされている方も多いと思います。東海生研も少し体制に変化がありますが、今年度もセミナーやアグリビジネス創出フェアなどのイベントを企画しています。適宜、案内をさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。さて、農林水産分野の研究目標は、高品質化、収量増、省力化などですが、フードロスにターゲットを当てた研究の取り組みも出てきました。また、最近話題となっている映画監督がフードロスをテーマとした動画を手掛け、これが web で公開されていたりもします。視点の新規性は、同時に独創性につながることもあると感じています。今年度も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 伊藤・岩佐・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録 (無料) ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2024年5月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第233号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2024年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

第1回セミナー

開催日時：2024年6月21日（金）14：20～16：30

開催場所：「ウインクあいち 1104会議室」

開催方法：会場および Zoom Webinar によるオンライン開催の併用型

ご講演：

◎演題：「産学連携支援事業 14年の歩み」

講師：公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会 産学連携事業部長  
佐藤 龍太郎 氏

◎演題：「イノベーション創出強化研究推進事業の成果 ～食味に優れた大型雌ウナギ生産技術の確立～」

講師：愛知県水産試験場 漁業生産研究所 栽培漁業グループ 稲葉 博之 氏

◎演題：「研究成果の社会実装について～大型雌ウナギ～」

講師：NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 理事 大石 一史 氏

・情報交流会 17:00～18:30

.....

2. 東海地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆東海地域スマート農業推進ネットワークの会員を募集しています。

東海農政局では、スマート農業の推進に資するため、行政機関、農業団体、農業者、技術を有するメーカーや販売事業者、スマート農業技術を用いて農業支援サービスを提供する事業者、試験研究機関等を会員とするネットワークを立ち上げたので、会員を募集しています。

参加費 無料

【お問合せ先】 生産部生産技術環境課 担当者：常川、澤田、谷貝

代表：052-201-7271（内線 2268、2267）ダイヤルイン：052-746-1313

☆「水田有機農業省力化推進のための雑草防除技術の開発」業務委託について（愛知県）

愛知県は水田作における有機農業の技術開発を進めるため、「水田有機農業省力化推進のための雑草防除技術の開発」を民間企業等へ委託します。

<委託する業務の概要パンフレット>

<https://www.biotech-tokai.jp/biotech/wp-content/uploads/2024/05/flyer.pdf>

<詳細確認><https://www.pref.aichi.jp/soshiki/nogyo-keiei/suidenyuuki.html>

<公募説明会>

- ・開催日：5月16日10時～ 説明会への参加は事前申込制（5/13締切）
- ・開催場所：愛知県庁西庁舎5階 海区漁業調整委員会委員室  
（質問等ございましたら是非御出席ください。オンライン併用 Microsoft Teams 使用）
- ・大学等の研究機関や複数企業の連名による共同提案も応募可能。

<問い合わせ先>

愛知県農業水産局農政部農業経営課  
農業イノベーション推進室（イノベーション推進グループ）  
〒460-8501名古屋市中区三の丸3-1-2 Tel：052-954-6413

3. 農林水産・食品分野の公募情報

【研究開発関連】

■省庁等

- ・農林水産省中小企業イノベーション創出推進事業(フェーズ3基金事業)
- ・JST：「2024年度戦略的創造研究推進事業（さきがけ）」
- ・JST：「2024年度戦略的創造研究推進事業（ACT-X）」
- ・JST：「2024年度戦略的創造研究推進事業（CREST）」
- ・JST：「2024年度（令和6年度）社会技術研究開発事業 SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（シナリオ創出フェーズ、ソリューション創出フェーズ）」
- ・JST：「経済安全保障重要技術育成プログラム2024年度第1回研究開発課題公募」
- ・JST：「大学発新産業創出基金事業 令和6年度ディープテック・スタートアップ国際展開

「プログラム」

■民間等

- ・公益信託仲谷鈴代記念栄養改善活動振興基金：  
「栄養改善に関する研究助成部門2024年度募集」
- ・日本ゴマ科学会：「令和6年度研究助成」
- ・公益財団法人住友電工グループ社会貢献基金：「2024年度学術・研究助成」
- ・公益財団法人サントリー生命科学財団：「2024年度SUNBOR GRANT」

上記、各事業及びプログラムの詳細な情報については東海生研HPをご覧ください。

東海生研ホームページのNEWS（お知らせ）のURL <https://www.biotech-tokai.jp/>

4. その他の情報

(1) 新技術情報

☆環境関係

○牛のげっぷ中のメタンガスを抑制する海藻の量産培養手法を開発

近年、海産紅藻類のカギケノリを反すう家畜の餌に混ぜて給餌することで、げっぷ中のメタンを低減できることが研究によって明らかになりました。

・農研機構 HP

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nilgs/144910.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nilgs/144910.html)

☆食品開発関係

○北海道産タマネギブランド「さらさらゴールド」が機能性表示食品としてオンラインで販売が開始されました。

研究グループ（農研機構、株式会社植物育種研究所、北海道国立大学機構 北見工業大学、北海道情報大学、東海国立大学機構 岐阜大学、弘前大学、協力機関として JA きたみらい、ホクレン農業協同組合連合会）では、タマネギに含まれるケルセチンの健康機能性に着目し、ケルセチンを多く含むタマネギの機能性表示を目指して研究を行ってきました。

・農研機構 HP

<https://www.naro.affrc.go.jp/org/nfri/yakudachi/sys-review/index.html>

.....

編集後記

ゴールデンウィークが終わりました。4月30日から5月2日まで休みを取れば10連休となつて、まさに大型連休でした。各地ではいろいろな楽しいイベントが催されたのではないのでしょうか。

さて、東海生研では、本年度の最初のイベントとして第1回セミナーを6月21日(金)に「ウインクあいち」で開催します。公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会の産学連携支援事業14年の歩み、愛知県水産試験場からはテレビのニュースにも取り上げられた大型雌うなぎの生産技術についての講演です。

どうぞふるってご参加ください（会場参加の他、オンライン参加も可能です）。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録（無料）ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2024年6月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第234号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2024年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

第1回セミナー

開催日時：2024年6月21日（金）14：20～16：30

開催場所：「ウインクあいち 1104会議室」

開催方法：会場および Zoom Webinar によるオンライン開催の併用型

ご講演：

◎演題：「産学連携支援事業14年の歩み」

講師：公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会 産学連携事業部長

佐藤 龍太郎 氏

◎演題：「イノベーション創出強化研究推進事業の成果 ～食味に優れた大型雌ウナギ生産技術の確立～」

講師：愛知県水産試験場 漁業生産研究所 栽培漁業グループ 稲葉 博之 氏

◎演題：「研究成果の社会実装について～大型雌ウナギ～」

講師：NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 理事 大石 一史 氏

・交流会 17:00～18:30

参加の申込み期限は6月13日です。

詳細は、下記の当研究会のホームページにてご確認ください。

<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

☆東海農政局主催

・令和6年度第1回学校給食セミナー「学校給食への地場産物・有機農産物等の活用」の参加者募集

食育の観点から、地場産物や有機農産物等を学校給食に取り入れる必要性や工夫についての講演、愛知県岡崎市での導入事例を紹介します。

開催日時：令和6年7月2日（火曜日）14時00分から16時30分

開催場所：三重県総合文化センター 文化会館棟2階 大会議室

定員：40名（学校給食事業に業務上関わりのある方を対象：行政・教育委員会、給食センター、栄養教諭、学校栄養職員等）

参加費：無料

Web 参加：なし

応募締切：令和6年6月26日(水曜日) 17時00分

詳細はこちら(プレスリリース)▼

<https://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/240524.html>

参加申込はこちら(参加申込フォーム)▼

<https://www.contactus.maff.go.jp/j/tokai/form/seikatsu/240524.html>

・野菜の消費拡大に関するセミナー「地域の野菜でカラダを元気にしませんか」の参加者募集

伝統野菜が生む郷土の食文化の紹介や、健康面から野菜の魅力をお伝えします。

開催日時：令和6年6月24日(月曜日) 13時30分から15時30分

開催場所：四日市市商工会議所 会議所ホール1

定 員：50名(先着順)

参加費：無料

Web 参加：なし

応募締切：令和6年6月14日(金曜日) 17時00分

詳細はこちら(プレスリリース)▼

<https://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/240425.html>

参加申込はこちら(参加申込フォーム)▼

<https://www.contactus.maff.go.jp/j/tokai/form/seikatsu/240624.html>

☆東海農政局消費者の部屋

6月は「食育月間」です。

特別展示 6月13日～6月28日まで 「食育月間」

<https://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/heyataokubetsu/index.html>

☆愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

「2024年度 愛知のふるさと食品コンテスト」への出品商品を募集しています。県内で生産された農林水産物を主な原材料に用いて、3年以内に製品化された加工食品(＝ふるさと食品)を対象とし、技術や味、包装デザインなどを競う「2024年度愛知のふるさと食品コンテスト」を開催します。

【応募方法等】 必要書類を愛知県農業水産局農政部食育消費流通課へ電子メール又は郵送で提出

提出期間：2024年5月8日(水)から6月28日(金) 必着

審査会：2024年8月1日(木) (審査に要する試食品を提供していただきます。)

出品要件、応募方法、審査基準などの詳細や応募書類の様式などは下記 Web ページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/press-release/r6hurusato-boshu.html>)

## ☆三河一色めすうなぎ研究会の活動紹介

生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」(JPJ007097)の支援を受け、「大型雌ウナギによる新規市場開拓コンソーシアム」の研究成果を社会実装するために設立した「三河一色めすうなぎ研究会」の活動を紹介します。

三河一色めすうなぎ研究会は5月29日よりMakuakeサイトで「関係者しか知らない 幻のめすうなぎ」のクラウドファンディングを実行しています。

(<https://www.makuake.com/project/ishikiunagi/>)

また、「めすうなぎ」の取組みが中京テレビに取材され、6月4日に放送されました。

(<https://youtu.be/g0Pq0NQbb9Q?si=WY0mKMNBdazFyRFe>)

.....

### 3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等(オンライン開催があるもの)

- ・【募集】「アグリビジネス創出フェア2024」の出展者の募集(6月20日まで)

農林水産省では、毎年、全国の産学官の機関が有する、農林水産・食品分野などの最新の研究成果を分かりやすく紹介し、研究機関同士や、研究機関と事業者との連携を促す場として、「アグリビジネス創出フェア」を開催しています。「距離が縮まるマッチンAgri」をテーマに、11月26日(火)から11月28日(木)まで、東京ビッグサイトにおいて開催します。開催に先立ち、5月22日(水)から6月20日(木)まで、本フェアへの出展者を募集します。出展要件等の詳細は公式サイトを御確認下さい<https://agribiz.maff.go.jp/2024/>

.....

### 4. 農林水産・食品分野の公募情報

#### 【研究開発関連】

#### ■省庁等

- ・農林水産省(基金設置法人:公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会):「令和4年度補正予算 農林水産省 中小企業イノベーション創出推進事業 第2回公募」
- ・JST:「2024(令和6)年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) 実装支援(返済型)」
- ・JST:「大学発新産業創出基金事業 令和6年度ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム」
- ・JST:「令和6年度 共創の場形成支援プログラム」
- ・JST:「2024年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム A-STEP 産学共同」
- ・JST:「2024年度 戦略的国際共同研究プログラム(SICORP) EIG CONCERT-Japan 第11回共同研究課題募集」

上記、各事業及びプログラムの詳細な情報については東海生研HPをご覧ください。

東海生研ホームページのNEWS(お知らせ)のURL <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

### 5. その他の情報

## 技術情報

☆要侵入警戒ウイルス ToBRFV のトマトやピーマンにおける種子伝染の仕組みを解明

-国内未発生のウイルスの侵入リスクを下げることに貢献-

- ・農研機構は、トマトに大きな被害をもたらす tomato brown rugose fruit virus (ToBRFV) がトマトだけでなくピーマンにおいて種子伝染することを世界で初めて明らかにしたほか、トマトやピーマンの種皮に ToBRFV が存在していることを示しました。
- ・本成果は、ToBRFV の侵入を防止するため種子の検査が重要であることを示しています。
- ・本成果が今後の種子検査技術の向上に寄与することで、国内未発生のウイルスの侵入リスク低減に貢献することが期待されます。

▽詳細はこちらから▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nipp/163075.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nipp/163075.html)

☆温暖化に対応したパインアップル品質予測モデルの開発

-出荷計画の策定や、新規開園の際に利用できます-

- ・農研機構と沖縄県農業研究センターは、パインアップル果実の酸度・糖度や収穫期を気温から精度よく予測するモデルを開発しました。
- ・本成果は各産地において、その年に収穫する果実の品質や収穫期を予測する場合や、新規にパインアップルを導入する地域において、高品質果実を収穫できる期間・品種を推定する場合の予測式として利用できます。

▽詳細はこちらから▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nifts/162672.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/162672.html)

## 編集後記

6月になりました。東海地方ではまだ梅雨入りの気配がなく、からっとした天気が続いています。もうすでに夏の装いへの切り替えも進んでいるようです。

さて、東海生研の第1回セミナーの開催が今月21日(金)に迫ってきました。今回は「産学連携支援事業14年の歩み」、「イノベーション創出強化研究推進事業の成果」、「研究成果の社会実装」についてご講演をいただきます。また、交流会も17時より行いますので、どうぞふるってご参加ください(会場参加の他、オンライン参加も可能です)。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録(無料)のご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2024年7月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第235号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

## 1. 2024年度「知」の集積による産学連携推進事業

### ☆第2回セミナー開催のお知らせ

当研究会では、毎年、農林水産・食品産業に関わる5つの専門部会の新技術等に関する第2回セミナーを開催しています。多数のご参加をお待ちしています。

【開催日時】2024年9月3日(火)

【開催場所】ウインクあいち12階1202会議室(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

【開催方法】会場参加及びオンライン(Zoom Webinar)参加のハイブリッド開催

【講演部門】○食品部会 ○畜産部会 ○作物部会 ○林産部会 水産部会

【講演】講師と演題(詳細は後日ご案内します。)

\*セミナー終了後、会場内で名刺交換会を予定しています。

.....

## 2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

### ☆農林水産省東海農政局

令和5年度食育白書を公表(令和6年6月7日付け)

特集テーマは「農林水産業に対する国民理解の醸成」と「子供・若い世代を中心とした食育の推進」です。

この白書を通して、食育について広く国民の皆様を知っていただくことを目指しています。

詳細はこちら(プレスリリース)▼

[https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/hyoji/240607\\_7.html](https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/hyoji/240607_7.html)

令和5年度 食育白書(令和6年6月7日公表)▼

[https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/r5\\_index.html](https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/r5_index.html)

### ☆三河一色めすうなぎ研究会の活動紹介

生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」(JPJ007097)の支援を受け、「大型雌ウナギによる新規市場開拓コンソーシアム」の研究成果を社会実装するために設立した「三河一色めすうなぎ研究会」の活動を紹介します。

三河一色めすうなぎ研究会は5月29日よりMakuakeサイトで「関係者しか知らない幻のめすうなぎ」のクラウドファンディングを実行しています。

(<https://www.makuake.com/project/ishikiunagi/>)

また、「めすうなぎ」の取組みが中京テレビに取材され、6月4日に放映されました。アーカイブは下記のURLでご覧いただけます。

(<https://youtu.be/g0Pq0NQbb9Q?si=WY0mKMNBdazFyRFe>)

.....  
3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）  
☆農林水産省が主催する「アグリビジネス創出フェア 2024」（Agribusiness Creation Fair 2024）

テーマ：「距離が縮まるマッチング Agri」

開催日時：2024年11月26日(火)～28日(木)

会場：東京ビッグサイト南2ホール

本フェアは、全国の産学官の機関が有する、農林水産・食品分野などの最新の研究成果を展示やプレゼンテーションなどで分かりやすく紹介し、研究機関同士や研究機関と事業者との連携を促す場として開催する「技術交流展示会」です。

▽詳細はこちらから▽

<https://agribiz.maff.go.jp/2024/>

.....  
4. 農林水産・食品分野の公募情報

【研究開発関連】

■省庁等

- ・農林水産省（技術会議事務局）：「令和6年度戦略的国際共同研究推進事業（フランス共和国との共同研究分野）」
- ・JST：「2024（令和6）年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）実装支援（返済型）」
- ・JST：「大学発新産業創出基金事業 令和6年度ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム」
- ・JST：「2024年度 戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）EIG CONCERT-Japan 第11回共同研究課題募集」

■民間等

- ・日本ゴマ科学会：「令和6年度研究助成」
- ・公益財団法人東洋食品研究所：「2025年度食品研究助成金」
- ・一般財団法人油脂工業会館：「令和7年度研究助成」
- ・公益財団法人浦上食品・食文化振興財団：「令和6年度学術研究助成」

上記、各事業及びプログラムの詳細な情報については東海生研HPをご覧ください。

東海生研ホームページのNEWS（お知らせ）のURL <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....  
5. その他の情報

【技術解説】

☆あいち産業科学技術総合センター食品工業技術センターニュース 2024年6月号より

・油脂の酸化に対する光源の影響について

食品工場、小売店、食品展示ショーケース などでは、光源として蛍光灯やLED照明が用いられています。近年では、LED照明は蛍光灯に比べて消費電力が少なく長寿命である、発熱量が少ない、紫外線をほぼ発しないという利点から、LED照明の導入が進んでいます。一方、食品に光を長期間照射し続けると、変色や異臭が生じるなど、品質変化が起こることが知られています。食品中の油脂も光により酸化が促進され、酸化した油脂は食品の風味を損ねるだけでなく、食中毒などの健康被害を引き起こす恐れがあります。そのため、包装条件や賞味期限を決定する上で、油脂の酸化に対する光源の影響を把握することが必要です。光源に蛍光灯とLED照明を用いた場合の油脂の酸化に及ぼす影響について試験を行いましたので、紹介します。

▽詳細はこちらから▽

[https://www.aichi-inst.jp/shokuhin/other/up\\_docs/news2406-2.pdf](https://www.aichi-inst.jp/shokuhin/other/up_docs/news2406-2.pdf)

#### 【技術情報】

☆農研機構は、収量が高い米国品種と加工適性が高い日本品種との交配により、多収で豆腐に利用できるダイズ新品種「そらひびき」、「そらたかく」を育成しました。

・「そらひびき」(東北194号)は東北南部～北陸地域が栽培適地で、既存の品種と比較して2割以上の多収が見込まれます。

・「そらたかく」(四国46号)は東海～九州地域が栽培適地で、既存の品種と比較して5割以上の多収が見込まれます。

▽詳細はこちらから▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/tarc/163266.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/163266.html)

☆農研機構では、作物生育における季節環境を精密に再現あるいは模擬できる人工気象室「栽培環境エミュレータ」に、大きさや色などの作物形質を連続で取得可能な「ロボット計測装置」を内蔵した「ロボティクス人工気象室」を開発し、イチゴの生育制御技術の開発等、様々な研究に利用しています。

本装置を用いて、21世紀末(2100年)の季節環境を人工的に構築し、水稻生育に与える影響を調査しました。その結果、現時点を超える気候変動の緩和策をとらない場合、高温と高CO<sub>2</sub>濃度が生育を早め、収量と品質の低下を引き起こす可能性があることを明らかにしました。本成果は、将来の気候変動への対策として、温暖化に対する頑健な品種の育成、生育を管理するための栽培技術の開発などに役に立つことが期待されます。

▽詳細はこちらから▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/rcait/154498.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/rcait/154498.html)

.....

#### 編集後記

東海地域もようやく梅雨入りとなり蒸し暑い日が続いています。体調の管理に十分お気をつけください。通勤電車の窓から見えるあちこちの田んぼでは、シラサギの姿がよく見

られるようになり、木々の葉の成長も早いと感じています。

さて、東海生研の本年度第1回セミナーを無事終えることができました。セミナーにご参加の皆様にご感謝申し上げます。ありがとうございました。また、セミナー後の懇親会では多くの方より講師への温かい励ましをいただいたようです。

第2回セミナーを9月3日（火）にウイंकあいちで開催いたします。食品、畜産、作物、林産、水産の5分野から最新の情報をテーマとする予定です。ふるってご参加ください。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp （\*を@に書き換えてください）

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録（無料）ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2024年8月13日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第236号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

## 1. 2024年度「知」の集積による産学連携推進事業

### ☆第2回セミナー開催のお知らせ

当研究会では、毎年、農林水産・食品産業に関わる5つの専門部会の新技術等に関するセミナーを開催します。多数のご参加をお待ちしています。

【開催日時】2024年9月3日(火)

【開催場所】ウインクあいち12階1202会議室(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

【開催方法】会場参加及びオンライン(Zoom Webinar)参加のハイブリッド開催

### 【講演】

- 食品部会 「タンパク質との相互作用を介した食品成分の機能性」  
名古屋大学大学院 生命農学研究科 教授 柴田 貴広 氏
- 林産部会 「植物由来のセルロースナノファイバーの構造と特性および応用展開」  
ーバイオマス(再生産可能な生物資源)の基礎研究と  
先端ナノテクノロジーへのチャレンジー  
東京大学大学院 農学生命科学研究科 特別教授 磯貝 明 氏
- 水産部会 「黒潮大蛇行と水産業への影響」  
三重県水産研究所 資源管理・海洋研究科 研究員 駒田 文菜 氏
- 畜産部会 「畜産とアニマルウェルフェア」  
岐阜大学 応用生物科学部 准教授 二宮 茂 氏
- 作物部会 「スマート農業の現状と開発の実情」  
名古屋大学大学院 生命農学研究科 助教 西内 俊策 氏

\*セミナー終了後、会場内で情報交流会を予定しています。

セミナーのお申込 東海生研 HP (<https://www.biotech-tokai.jp/>)

.....

## 2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

### ☆東海農政局 食育情報

ー 健全な食生活の実践と食を支える農林漁業の理解のために ー

YouTube 動画『東海食育さんぽ』第8回「食品ロス削減を考える！」人生100年時代とも言われているなか、一生を通じて健やかな食生活を送るために「食育」はすべての世代に必要な不可欠で、「自分事(ごと)」として向き合っていくことが大切です。

東海農政局 Web サイト(東海食育さんぽ)はこちら▼

<https://www.maff.go.jp/tokai/keiei/shokuhin/shokuiku/SANPO.html>

☆「愛知県農業総合試験場の研究成果等を動画で公開しています！」

愛知県農業総合試験場では、県民の皆様にご覧いただくため、試験場の概要や研究成果等をわかりやすく取りまとめた「動画」を公開しています。この度、「卵の重さをカメラで判定！一画像処理を利用した卵重測定技術を開発」など、7本を追加して合計で43本の動画を公開しています。ぜひ一度、ご覧ください。

・農業総合試験場トップページ

<https://www.pref.aichi.jp/site/nososi/>

・研究成果等PR動画Webページ

<https://www.pref.aichi.jp/site/nososi/onlinetokusetu-site.html>

☆三重大学大学院生物資源学研究科オープンラボ2024

詳しくは、以下のURLをご覧ください。

ホームページ <https://www.bio.mie-u.ac.jp/cate/news/openlab2024.html>

▼開催日時：2024年9月27日（金）13:00～17:00（受付12:15～）

終了後に会費制の情報交換会を予定しています。（要事前予約）

▼開催場所：三重県津市栗真町屋町1577 三重大学三翠ホール <https://onl.la/pUwTfnR>

▼開催内容：教員によるシンポジウム、および教員・学生によるポスターセッション

▼参加対象者：農林水産、食品、バイオ・医薬品、化学、環境科学などの関連企業や公的機関の方、地域共創などに興味のある一般の方、学生など

▼チラシ：<https://www.bio.mie-u.ac.jp/files/openlab2024.pdf>

▼申込方法：以下のリンクからお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/qy5WzMVbJ6>

主催：三重大学大学院生物資源学研究科

協力：株式会社三重ティーエルオー

■お問合せ先

三重大学大学院生物資源学研究科チーム総務担当 渡部、竹中

TEL：059-231-9627/9626

E-Mail：[renkei\(a\)bio.mie-u.ac.jp](mailto:renkei(a)bio.mie-u.ac.jp) ※「(a)」を「@」に変えてください。

.....

3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆ムーンショット双方向対話イベントを開催します(8月20日)

～2050年を創るムーンショット双方向対話 エピソード1 「あなたが決める未来の食と農」～

「ムーンショット目標5 2050年の食と農」の8つのプロジェクトの説明を聞いてあなたと研究者で双方向に意見を交換し、仮想の投資ゲームを通してあなたの意見・アイデアを「食と農」に活かすイベントを開催します。

高校生、大学生、大学院生等の若手の皆様の参加を大歓迎します。奮ってご参加ください。

日時：2024年8月20日（火）13:00 スタート、15:00 頃終了予定 12:30 開場

会場：日本科学未来館 7階 未来館ホール

参加費：無料

詳細および申し込み

[https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/moon\\_shot/news/2024/163835.html](https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/moon_shot/news/2024/163835.html)

主催：生物系特定産業技術研究センター(BRAIN)

.....

#### 4. 農林水産・食品分野の公募情報

##### 【研究開発関連】

###### ■省庁等

- ・環境省（執行団体：一般社団法人日本有機資源協会）：「令和6年度脱炭素型循環経済システム構築促進事業（うち、プラスチック等資源循環システム構築実証事業）（三次公募）」

###### ■民間等

- ・公益財団法人園芸振興松島財団：「2024年度第51回研究助成」
- ・公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団：「2024年度学術研究助成」

##### 【研究開発関連以外】

###### ■省庁等

- ・農林水産省（農林水産技術会議事務局 筑波産学連携支援センター）：「令和6年度「知」の集積による産学連携推進事業のうちバイオエコノミー推進人材活動支援事業（第2回公募）」

上記、各事業及びプログラムの詳細な情報については東海生研HPをご覧ください。

東海生研ホームページのNEWS（お知らせ）のURL <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

#### 4. その他の情報

##### (1)新技術情報

###### ☆花き関係

○岐阜県農業技術センターで黄色系フランネルフラワーの2品種新たに育成(花き部)した。

フランネルフラワーは、オーストラリア原産のセリ科の多年草です。白い花で花弁のように見える総苞片（そうほうへん）が毛織物のフランネルと同じ触感であることから名付けられました。元々は草丈が高く、切花として利用されていたものから、新たに鉢花でも利用できる品種の開発を目指して育種に取り組み、世界に先駆けて鉢花用の品種や有色の品種を育成しています。これまでに切花用3品種、鉢花用3品種を育成し、全国シェア95%以上の生産を誇っています。今回、これまで1品種しかなかった黄色系品種のバリエーションを広げるべく、2つの黄色品種を育成しました。

「ハニーホイップ」は花色がクリーム色で、中輪多花となります。「ハニーマスカ

ット」は花色が緑色・黄色・クリーム色のグラデーションで、小輪多花となります。いずれも下葉の枯れが少なく作り易い品種で、3～5月のマーケット拡大に貢献できます。

岐阜県農業技術センターニュース 令和6年4月

<http://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

☆水産関係

○おいしい大型雌ウナギの生産技術確立とチョウザメへの応用

愛知県水産試験場（愛知県西尾市）を代表機関とする研究グループは、養殖下で大豆イソフラボンを飼料に添加して与えることで、ほぼ100%雌にすることに成功し、通常の2倍の大きさ（重量400～500g）に育てても軟らかくておいしいウナギを生産する技術を確立しました。

生研支援センター成功事例 令和6年3月27日号

<https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/contents/fukyu/episode/index.html>

.....

編集後記

連日きびしく危険な暑い日が続いていますので農林水産業への被害が懸念される所です。さらにこの先一か月もまだまだまだ体温を超えるような暑さが続くようですので、暑さと食中毒には十分気を付けたいと思います。また、お盆休みにはしっかりと休養を取り取りましょう。

さて、来月3日に第2回セミナーを開催いたします。講演順はホームページでお知らせいたします。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録（無料）ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2024年9月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第237号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2024年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆第3回セミナー開催について

【開催日時】2024年10月31日（木）午後から開催

【開催方法】オンライン（Zoom Webinar）開催

詳細は決まり次第、メルマガ・HPでお知らせいたします。

.....

2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

☆東海農政局消費安全部・消費生活課

★「第25回シーフード料理コンクール」参加者を募集！

<みんなでお活#おさかな愛>

全国漁業協同組合連合会は、「第25回シーフード料理コンクール」を開催します。このコンクールでは、アイディアあふれる魚介藻類のオリジナルレシピを募集し、優秀作品を広くPRすることで、多くの方々にお魚料理の美味しさを再発見していただきたいと考えています。

○プロを目指す学生部門「自慢料理」

○魚活チャレンジ部門「フライパン1つでできる」

【25周年記念特別部門】親子で魚活チャレンジ部門「おにぎり」

応募締切：令和6年9月20日（金曜日）当日必着

詳細はこちら▼

[https://www.pride-fish.jp/seafood\\_concours/](https://www.pride-fish.jp/seafood_concours/)（外部リンク）

参加申込はこちら（参加申込フォーム）▼

[https://www.pride-fish.jp/seafood\\_concours/form/](https://www.pride-fish.jp/seafood_concours/form/)（外部リンク）

.....

3. 2024年度の競争的研究資金について

【研究開発関連】

■省庁等

☆JST：「2024（令和6）年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）実装支援（返済型）」

☆JST：「令和7年度 国際科学技術共同研究推進事業 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム」

■民間等

☆公益社団法人日本農芸化学会：「第7回農芸化学中小企業産学・産官連携研究助成」

☆公益社団法人日本農芸化学会：「第52回研究奨励金」

2024年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧下さい。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

#### 4. その他の情報

##### (1) 新技術情報

###### ☆家禽関係

「未利用の食品製造副産物を混ぜて 飼料効率をアップ！-名古屋コーチンにおける地域資源飼料の利用技術を開発」

近年の飼料価格の高止まりが養鶏経営を圧迫しています。そのため、名古屋コーチンにおいて食品製造副産物（乾燥出汁しぼり粕・バウムクーヘン屑）を飼料原料として市販配合飼料に混合し、飼料費を低減する技術を開発しました。これにより、生産コスト削減とともに、1羽当たりの粗利益を増加させることができます。

・愛知県農業総合試験場 HP:2023年愛知県農業総合試験場の10大成果

<https://www.pref.aichi.jp/nososi/>

###### ☆獣害防除関係

「アラ！つつい手がでる「新(アラ)手の罠」-アライグマだけが自ら入る「捕獲器」を開発」

特定外来生物のアライグマは、農業被害だけでなく、生態系破壊、感染症媒介への不安等から捕獲強化が望まれています。しかし、従来の箱罠では、イヌ・ネコ等が誤って捕獲されてしまうことがあり、アライグマの捕獲が進んでいません。そこで、アライグマの前脚が器用に動かせるという身体特性を活かして選択的に捕獲する捕獲器を開発しました。

・愛知県農業総合試験場 HP:2023年愛知県農業総合試験場の10大成果

<https://www.pref.aichi.jp/nososi/>

###### ☆果樹関係

「航空輸送を想定したイチゴ鮮度保持技術の開発」

静岡県の農産物の輸出は増加しており、イチゴの輸出は香港への航空輸送が期待されています。しかし、航空輸送の貨物室では温度管理ができないことから、特に5月の輸送条件では高温による品質低下のクレームが多く発生し、より良い流通方法が要望されていました。そこで、航空輸送に利用可能な低温輸送技術として、ドライアイスを用いた貯蔵流通技術を開発しました。

・静岡県農業技術研究所 NEWS2024.8

<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/index.html>

## ☆茶関係

### 「ドローンを活用した茶園生育診断技術の開発」

近年、茶の市場価格の低迷による離農や農家の高齢化により、小規模生産者が減少しており、担い手や農業法人へ茶園が集積されています。経営規模の拡大に伴い、全ての茶園の生育状況を把握することが困難になり、摘み遅れによる品質低下が懸念されています。そこで当センターでは、省力的に新芽の生育状況を評価するため、広域観測に優れるドローンを用いて、新芽の生育量及び成分を経時的に予測する技術の開発に取り組んでいます。使用するドローンはDJI社製 Phantom 4 Multispectral です。あらかじめ飛行経路を設定することで、自動で飛行撮影するため、基本的には操作は不要です。

・静岡県農業技術研究所 NEWS2023.10

<https://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/>

.....

## 編集後記

8月下旬から9月にかけての台風10号は、各地で長い時間にわたって猛烈な強い風が吹いて、総雨量も非常に多く、農林水産物への被害がありました。今後の収穫量の減少や価格高騰への影響が懸念されるどころです。9月に入っても高温傾向は続き、まだまだ猛暑日が続いています。食中毒に気を付け、栄養たっぷりの食材をいただいて元気に頑張りましょう。

さて、10月31日(木)に第3回セミナーをオンライン開催します。テーマ、講演者、演題等については決まり次第、メルマガ・HPでお知らせをいたします。第2回セミナー同様に奮ってご参加ください。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録(無料)のご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2024年10月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第238号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2024年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆第3回セミナー開催について

【開催日時】2024年10月31日（木）午後から開催

【開催方法】オンライン（Zoom Webinar）開催

【講演テーマ】「スマート農業実証プロジェクト」

詳細は東海生研HPでお知らせいたします。

☆「アグリビジネス創出フェア in 東海」の開催について

【目的】東海地域における大学、企業、公設試験場、独立行政法人等の研究開発シーズや成果を紹介する場を提供し、参加者の産学官マッチングによるビジネス創出を支援します。

【開催場所】名古屋大学 野依記念学術交流館

名古屋市中種区不老町 地下鉄 名古屋大学駅 下車5分

【開催日時・プログラム】

・会場展示

2024年12月5日（木）野依記念学術交流館 1階

13:00-17:00 開会式 ブース展示、ポスター展示

・シンポジウム、第4回セミナー（ハイブリッド開催）

2024年12月6日（金）野依記念学術交流館 2階

10:00-12:00 東海4県農業関係試験研究機関シンポジウム

岐阜県農業技術センター、愛知県農業総合試験場、三重県農業研究所、  
静岡県農林技術研究所

13:00-14:30 NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 第4回セミナー

企業、高校など

・Web展示

2024年12月5日（木）—2025年1月17日（金）

東海生研HPにて出展機関のデータ（テキスト等、映像）を公開します。

主催：NPO法人東海地域生物系先端技術研究会

共催：東海4県農業関係試験研究機関

アジア農学系大学連合（AAACU:Asian Association of Agricultural Colleges  
and Universities）

後援：名古屋大学大学院生命農学研究科 農研機構中日本農業研究センター

公益財団法人農林水産・食品産業技術振興協会

セミナー等は東海生研 HP からお申し込み下さい。 <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

## 2. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

-----  
「アグリビジネス創出フェア 2024 ～距離が縮まるマッチング Agri～」を開催します！  
-----

農林水産省は、11月26日（火）から11月28日（木）までの3日間、東京ビッグサイトにおいて、農林水産・食品分野の技術交流展示会「アグリビジネス創出フェア 2024」を開催します。

今年は、全国の136の機関が最新の研究成果を出展するとともに、株式会社AGRIKO代表取締役で俳優としても御活躍の小林涼子氏による基調講演や、農林水産・食品分野のスタートアップの創出に向けたセミナーなど、様々な企画を行います。

皆様の御来場をお待ちしております！

### ■「アグリビジネス創出フェア 2024」について

日 程：2024年11月26日（火）～28日（木） 各日 10:00～17:00

会 場：東京ビッグサイト南2ホール（東京都江東区有明 3-11-1）

入場料：無料

### ■来場事前登録

本フェアはどなたでも御来場いただけますが、専用サイト（以下 URL）での来場事前登録が必要です。なお、参加費は無料です。

来場事前登録専用フォーム：<https://agribiz.maff.go.jp/register>

### ■基調講演、セミナー情報

#### 【基調講演】

11月26日（火）13時00分～14時00分

「美味しいものを食べ続けられる未来をつくるー都市農業×農福連携×食育の可能性ー」

株式会社AGRIKO代表取締役・俳優 小林涼子氏

#### 【セミナー】

農林水産・食品分野の最新の研究成果や知的財産戦略に関するセミナーなど、様々なセミナーを企画しています。詳細は以下 URL を御覧ください。

<https://agribiz.maff.go.jp/seminar>

### ■問合せ先

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課 産学連携室 奥田

電話：03-6744-7044

.....

## 3. 2024年度の競争的研究資金について

### 【研究開発関連】

■省庁等

☆JST：「令和6年度ムーンショット型研究開発事業 日本 JST-アメリカ NSF-オーストラリア CSIRO-インド ICAR 日米豪印4カ国共同研究 AI-ENGAGE (Advancing Innovations for Empowering NextGen Agriculture)」

☆内閣府（食品安全委員会）：「令和7年度食品健康影響評価技術研究」

■民間等

☆公益財団法人食生活研究会：「2025年度研究助成」

2024年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧ください。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

4. その他の情報

(1) 新技術情報

☆農産関係

○加工にも青果にも使える沖縄向けサツマイモ基腐病抵抗性新品種「ニライむらさき」  
農研機構は、サツマイモ基腐病(以下、基腐病)に強い抵抗性を有し、食味が良く、島尻マージ土壌での栽培に適した紫かんしょ(沖縄で「紅いも」と称されるかんしょ)の新品種「ニライむらさき」(系統名:糸系2)を育成しました。先に開発したジャーガル土壌向けの「おぼろ紅」とあわせて沖縄県内の産地全域を基腐病抵抗性品種でカバーできるようになり、生産者が安心して栽培でき、紅いもの安定生産に寄与することが期待されます。

▽詳細はこちら▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/karc/165287.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/165287.html)

☆畜産関係

○牛呼吸器病の原因となるパスツレラ科細菌の薬剤耐性遺伝子を迅速・簡便に検出可能なキットを製品化

農研機構とタカラバイオ株式会社は、牛に呼吸器病を引き起こすパスツレラ科細菌3種を検出し識別できるキット及びこれらの菌種の薬剤耐性菌が共通に保有する6種類の薬剤耐性遺伝子を検出し識別できるキットを開発しました。これらはマルチプレックスリアルタイムPCRを用いた検査法で、2つのキットを同時に用いることで、従来法では4~5日程度を要していた原因菌の同定及び薬剤耐性の判定を最短1日で行うことができ、早期の抗菌剤の選定を可能にします。

▽詳細はこちら▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/niah/165001.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/niah/165001.html)

.....

編集後記

能登地方では先日の線状降水帯の発生で大雨による甚大な被害が発生してしまいました。東海地域では日中の気温は高いものの、朝夕はようやく秋らしくなってきました。

さて、東海生研の「第3回セミナー」を10月31日(木)にオンラインで開催します。テーマは「スマート農業実証プロジェクト」です。詳細が決まりましたら東海生研HPでご案内いたします。また、12月5日～6日に「アグリビジネス創出フェア in 東海」を開催します。東海生研HPに出展などについて掲載していますので4ご覧ください。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録(無料)のご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2024年11月11日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第239号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2024年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆「アグリビジネス創出フェア in 東海」の開催について

【目的】東海地域における大学、企業、公設試験場、独立行政法人等の研究開発シーズや成果を紹介する場を提供し、参加者の産学官マッチングによるビジネス創出を支援します。

【開催場所】名古屋大学 野依記念学術交流館

名古屋市千種区不老町 地下鉄 名古屋大学駅 下車5分

【開催日時・プログラム】

・会場展示

2024年12月5日(木) 野依記念学術交流館 1階

13:00-17:00 開会式 ブース展示、ポスター展示

・シンポジウム、第4回セミナー(ハイブリッド開催)

2024年12月6日(金) 野依記念学術交流館 2階

10:00-12:00 東海4県農業関係試験研究機関シンポジウム

岐阜県農業技術センター、愛知県農業総合試験場

三重県農業研究所、静岡県農林技術研究所

13:00-14:30 NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第4回セミナー

企業、高校などの成果発表

・Web展示

2024年12月5日(木)―2025年1月17日(金)

東海生研 HP にて出展機関のデータ(テキスト等、映像)を公開します。

主催：NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

共催：東海4県農業関係試験研究機関

アジア農学系大学連合 (AAACU:Asian Association of Agricultural Colleges and Universities)

後援：名古屋大学大学院生命農学研究科 農研機構中日本農業研究センター

公益財団法人農林水産・食品産業技術振興協会

セミナー等は東海生研 HP からお申し込み下さい。 <https://www.biotech-tokai.jp/>

☆令和6年度スマートグリーンハウス展開推進研修会「ケーススタディとディスカッション「計測技術とデータ利用方法」

- 1 開催日時：令和6年11月27日（水）13:30～16:00
- 2 開催場所：三重県農業研究所 植物工場三重実証拠点 研修室
- 3 内容：ケーススタディとディスカッション「計測技術とデータ利用方法」  
講演1：計測の基本技術と農研機構の取組事例  
農研機構 西日本農業研究センター 施設園芸グループ 吉越恆 グループ長  
講演2：温室環境、生育等のデータ活用による栽培管理の改善  
静岡県農林技術研究所 大石直記 主任研究員
- 4 参集範囲：施設園芸および圃場管理を行う農業者および経営者、指導者等
- 5 参加費：なし
- 6 主催：三重県農業研究所
- 7 申し込み：<https://www.pref.mie.lg.jp/NOUGI/HP/m0132900106.htm>

「別紙チラシ」の裏面申込書に必要な事項を記入のうえ、11月22日（金）までにFAX（0598-42-1644）または電子メール（[plant-fb@pref.mie.lg.jp](mailto:plant-fb@pref.mie.lg.jp)）で担当まで送付願います。申込み多数となった場合、人数を調整させていただく場合がございます。

事務局：三重県農業研究所野菜園芸研究課（担当：磯山、杉村、近藤）

電話：0598-42-6358 FAX：0598-42-1644

問い合わせ先メールアドレス：[plant-fb@pref.mie.lg.jp](mailto:plant-fb@pref.mie.lg.jp)

ホームページ：<http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/plant-factory/index.htm>

※研修案内の停止を希望される場合やメールアドレスを変更される場合は

FAXまたは問い合わせ先メールアドレスにて事務局までご連絡ください。

.....  
2. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

---

「アグリビジネス創出フェア2024 ～距離が縮まるマッチングAgri～」を開催します！

---

農林水産省は、11月26日（火）から11月28日（木）までの3日間、東京ビッグサイトにおいて、農林水産・食品分野の技術交流展示会「アグリビジネス創出フェア2024」を開催します。

■「アグリビジネス創出フェア2024」について

日程：2024年11月26日（火）～28日（木） 各日10:00～17:00

会場：東京ビッグサイト南2ホール（東京都江東区有明3-11-1）

入場料：無料

■来場事前登録

来場事前登録専用フォーム：<https://agribiz.maff.go.jp/register>

.....  
3. 2024年度の競争的研究資金について

## 【研究開発関連】

### ■省庁等

☆JST：「2024（令和6）年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）実装支援（返済型）」

☆NEDO：「2024年度 ディープテック・スタートアップ支援基金/国際共同研究開発」

### ■民間等

☆公益財団法人G-7奨学財団：「令和7年度 定期公募 研究開発助成事業」

☆一般財団法人Konno&レスター財団：「2025年度研究助成」

☆公益財団法人日本食品化学研究振興財団：「令和7年度研究助成」

2024年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧ください。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

## 4. その他の情報

### (1) 新技術情報

#### ☆農産関係

○促成栽培イチゴで発生するヒラズハナアザミウマ *Frankliniella intonsa* (Trybom) に対する物理的防除法の効果

促成栽培イチゴでは、春先からヒラズハナアザミウマの発生量が増加し、アザミウマ類に吸汁加害された果実は光沢がなく、果皮が肥厚した肥大不完全な褐色の果実となる。1) 発生するアザミウマ類の種類は、ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が知られており、全国的にはヒラズハナアザミウマ *Frankliniella intonsa* (Trybom) が優占する地域が多く2) 3)、岐阜県でも加害主要種となっている。野外では成虫態で越冬し、晩春から初夏に個体数が急増する。細長い体型をしているため、細かな目合いの防虫ネットを施設側面に展開しても、侵入防止効果は限定的で4)、換気のため施設側面を開放する秋期と春期に侵入リスクが高くなる。著者らはこれまでに室内試験でイチゴの花の前面に黒色の資材を設置することで、ヒラズハナアザミウマの花への移動が抑制される現象を観察し(未発表)、視覚を遮ったことによるものと考えた。そこで、施設内のイチゴの株を周囲の雑草地から視覚的に遮蔽し、侵入を防止する物理的防除法を考案し、その効果を検証した。

・岐阜県農業技術センター研究報告 第21号：13～16 (2023)

<https://www.g-agri.rd.oref.gifu.lg.jp/>

#### ☆農産関係

○冷蔵中のLED弱光短時間照射によるワサビ実生苗の長期保存

水ワサビ栽培は一年を通じていつでも苗の定植が可能ですが、秋に定植する苗の供給には夏の育苗が必要です。近年は標高や緯度の高い地域でも酷暑となるため、夏に苗が生育せず、秋の定植苗不足が深刻になっています。そこで当研究所では、生産が安定して

いる春の苗を、秋まで長期間冷蔵保存する技術の開発に取り組んでいます。開発した冷蔵技術の概要は下記のとおりで、弱光照射下で最長6か月間（弱光照射なしで最長4か月間）の冷蔵保存が可能となりました。（1）保存容器は透明または白色半透明のプラスチック製。（2）苗は保存容器内の底に培土を接して並べ入れる。（3）保存容器は完全に密封し、冷蔵温度3℃、保存容器内湿度ほぼ100%で維持。（4）冷蔵中にLE弱光（照射光量PPFD 5~10  $\mu\text{mol}/\text{m}^2/\text{s}$ 、60型相当の電球色LED2個を距離1m前後で照射）を短時間（照射時間1~6時間/日）照射本技術は水ワサビ生産者が自宅の苗専用プレハブ冷蔵庫で個別に冷蔵することを想定しており、秋の苗不足を補完する方法として有効と考えられます。

（農林技術研究所伊豆農業研究センター 研究情報 NO.89 (2024.10)

<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/index.html>

.....

#### 編集後記

しばらく気温の高い日が続いていましたが、11月に入り肌寒さを感じられるようになってきました。体調管理に気を付けたいものです。

さて、10月31日にスマート農業についての第3回セミナーをオンラインで開催し、多くの方々に参加をいただき感謝申し上げます。国の施策やスマート農業を実践している方々のお話を聞くことができ、多くのご質問もいただき有り難うございました。

また、12月5日~6日に「アグリビジネス創出フェア in 東海」を名古屋大学 野依記念学術交流館で開催します。本メールマガジン及び当研究会ホームページに詳しいご案内を掲載していますので、ご覧いただき、是非、ご参加下さい。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術 TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録（無料）ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2024年12月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第240号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2024年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆「アグリビジネス創出フェア in 東海」の web 展示について

2024年度の「アグリビジネス創出フェア in 東海」を12月5日～6日に開催しました。出展機関のデータ（映像、テキスト等）を「web展示」として、東海生研ホームページ上で2025年1月17日（木）まで公開しています。

<https://www.biotech-tokai.jp/>

---

☆第50回ブルームフェス2025 冬名古屋を開催します（1/7、8）

～リアルを、感じる。未来を、創る。～

---

名古屋で50年続く園芸・フラワー資材の見本市が開催されます。

（主催：福花園種苗株式会社）

皆さまのご来場をお待ちしております。

日時：1 卸・小売店様向け：2025年1月7日（火曜日）9時30分から17時

2 卸・小売店様向け：2025年1月8日（水曜日）9時30分から16時30分

3 一般来場者様向け：2025年1月8日（水曜日）13時から16時30分

※3は一般のお客様もご来場いただけます。

場所：名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）第Iファッション展示場

（名古屋市千種区吹上2-6-3）

今回の見どころ：・多数の園芸資材や観葉植物が登場

- ・人気園芸 YouTuber カーメン君が来場！
- ・最新の農業ドローン技術デモンストレーション
- ・3Dプリントを活用した農業製品
- ・飲食ブースも複数登場予定！

入場料：無料（事前登録制）

詳しくはこちらをご覧ください。（登録もこちらから）

【公式サイト】<https://fukukaen.co.jp/exhibition2025/>

.....

2. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆2024年度近畿アグリハイテク公開セミナー「健康な土をつくる～ミミズが教えてくれること～」

日時：令和7年2月21日（金）14:00～16:00

場所：キャンパスプラザ京都4階第3講義室（京都府京都市下京区西洞院通塩小路下

る東塩小路町 939)

形態：ハイブリッド開催

内容：<https://agri-renkei.jp/2024/11/14/6599/>

☆セミナー「島根のワイン醸造とブドウの栽培、発酵の知恵を現地から学ぶ」

日時：令和 6 年 12 月 12 日（木） 13:15～17:00

場所：島根ワイナリー新館「シャトー弥山」（島根県出雲市大社町菱根 264-2）

内容：<https://agri-renkei.jp/2024/11/05/6557/>

☆セミナー「地域資源を活かした産地と食品産業の持続的な発展に向けて」

日時：令和 6 年 12 月 13 日（金） 13:30～16:30

場所：ノートルダム清心女子大学 トリニティホール 3 階 T31（岡山県岡山市北区伊福町 2-16-9）

内容：<https://agri-renkei.jp/2024/11/08/6424/>

.....

### 3. 2024 年度の競争的研究資金について

#### 【研究開発関連】

##### ■省庁等

☆JST：「2024（令和 6）年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）実装支援（返済型）」

☆JST：「令和 6 年度ムーンショット型研究開発事業 日本 JST-アメリカ NSF-オーストラリア CSIRO-インド ICAR 日米豪印 4 カ国共同研究 AI-ENGAGE（Advancing Innovations for Empowering NextGen Agriculture）」

##### ■民間等

☆公益財団法人日本食品化学研究振興財団：「令和 7 年度研究助成」

☆一般財団法人糧食研究会：「2025 年度研究テーマ募集」

2024 年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧ください。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

### 4. その他の情報

#### (1) 新技術情報

##### ☆農産関係

○ドローンセンシングと可変施肥を組み合わせた「きぬあかり」の精密管理

小麦作において安定した収量・品質を確保するには、小麦の生育状況を正確に把握し、生育に応じた追肥を行うことが重要です。そのため、小麦「きぬあかり」において、これまでに開発した生育をドローンで省力的に把握し適正な追肥量を診断する技術と、可変施肥機\*を組み合わせた精密追肥の効果を検証するとともに、経営評価を行いました。

(\*GPS と肥料散布口の自動開閉装置が連動し、地点ごとに施肥量を設定できる施肥機)

精密追肥により不要な施肥を抑え、生育ムラを改善したことで、収量、タンパク質含有率の

バラつきが抑えられるとともに、外観品質は向上しました。10a 当たりの肥料費は 1,067 円減、売上は 2,656 円増で、収益差は 3,723 円増となりました。必要な機械等の経費は年間 33 万円程度増加しますが、10ha 以上の経営面積で、所得向上にもつなげられると考えられました。

・愛知県農業総合試験場 HP:2023 年愛知県農業総合試験場の 10 大成果

<https://www.pref.aichi.jp/nososi/>

## ☆果樹関係

### ○カンキツ園で使える軽トラ・アタッチメント式防除機

カンキツ産地では担い手の高齢化が進み、産地の栽培面積も減少傾向にあります。今後、産地を維持していくためには若い担い手への園地集積と、大規模経営が可能となる省力技術体系の確立が必要と考えます。そのためには、園地を列間伐して隔列で農業機械が走れる作業道を配置した形に整備することが必要です。農業機械としては、どこの農家にも普及している軽トラックに着目し、軽トラックを運搬用途だけにとどまらずに、安価で様々な作業機械に進化させるアタッチメント式作業機の開発を目指しました。今回は軽トラックの両側にブームノズルを取り付けたアタッチメント式防除機を開発し、年間の防除作業に利用してその実用性についても検証しました。

・令和 4 年度三重農研成果情報<普及成果>

<https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm> (三重農研 HP)

.....

## 編集後記

11 月下旬から 12 月にかけてようやくイチョウの葉が黄色く色づき、遅れていた秋を堪能することができました。

12 月 5 日～6 日に開催しました「アグリビジネス創出フェア in 東海」では多くの出展機関、来場者にご参加をいただきました。また、多くの学生さんの参加をいただいて賑やかな開催となりました。感謝申し上げます。しばらくの間、コロナウイルスのパンデミックの影響により会場開催ができない時もありましたが、やはり対面の良さを実感しました。

皆様、この一年、本メールマガジンをご愛読いただき有り難うございました。来年もよろしくお願ひ申し上げます。どうぞ良い年をお迎え下さい。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録 (無料) ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2025年1月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第241号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2024年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆「アグリビジネス創出フェア in 東海」のweb展示について

2024年度の「アグリビジネス創出フェア in 東海」出展機関のデータ（映像、テキスト等）を東海生研ホームページ上で2025年1月17日（木）まで公開しています。

<https://www.biotech-tokai.jp/>

☆2025年度「あいち中小企業応援ファンド新事業展開応援助成金（地場産業枠・農商工連携枠）」の募集開始について

あいち産業振興機構では、中小企業者等が行う地域資源を活用した新製品（商品）開発、販路拡大などの新事業展開を支援するため、「あいち中小企業応援ファンド新事業展開応援助成金」を実施しています。

1 募集期間 2024年12月9日（月）から2025年1月17日（金）まで

2 対象者 中小企業者等（中小企業者、中小企業者グループ、小規模企業者、中小企業者団体、一社団法人及び一般財団法人）

3 助成金区分

(1) 新事業展開応援助成金（地場産業枠）

主要地場産業（繊維、窯業、食品、家具及び伝統的工芸品）の分野で県内の地域資源を活用した新事業展開

(2) 新事業展開応援助成金（農商工連携枠）

あいち産業科学技術総合センターや愛知県農業総合試験場等と連携し、県内の地域資源の農林水産物を活用した新事業展開

4 対象事業（両助成金区分共通）

1. 新製品（商品）開発、2. 販路拡大、3. 人材育成（1、2につながるもの）

5 申込み・問合せ先 公益財団法人あいち産業振興機構新事業支援部 地域資源活用・知的財産グループ TEL052-715-3074

詳細はこちら▼<https://www.aibsc.jp/support/1182/>

.....

2. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆食育推進フォーラム2025～みらいプレスで見えてくる！わたしたちの食育～

開催日時：令和7年1月31日（金曜日）15時00分から17時00分

開催場所：日比谷国際ビルコンファレンススクエア（東京都千代田区）

募集人数：会場参加 150名、オンライン参加 350名（zoomウェビナー配信）

参加費：無料

詳細はこちら▼<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/e-mag/bk/attach/pdf/54mag-1.pdf>

☆「革新的新品種開発加速化緊急対策のうち政策ニーズに対応した革新的新品種開発（提案公募型）」の公募開始のお知らせ

生研支援センターでは、「革新的新品種開発加速化緊急対策のうち政策ニーズに対応した革新的新品種開発（提案公募型）」の公募を開始しました。

公募期間：2025年1月8日（水曜日）～2月5日（水曜日）正午まで

公募説明会：2025年1月にオンラインで開催予定

詳細はこちら▼[https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/hinsyu-kaihatsu\\_r6hosei/offering/koubo/2024.html](https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/hinsyu-kaihatsu_r6hosei/offering/koubo/2024.html)

☆北陸農政局「令和6年度『食育ネットほくりく』交流会」の開催

北陸農政局は、「ほくりくアイドル部と一緒に北陸の食を推し活～地元食材を生かしたライブクッキング～」を開催します。

開催日時：令和7年1月18日（土曜日）13時30分から15時30分

開催場所：金沢広坂合同庁舎1階 大会議室（石川県金沢市）

募集人数：会場参加 50名、オンライン参加 定員制限なし

参加費：無料

詳細はこちら▼<https://www.maff.go.jp/hokuriku/news/press/syouan/241210.html>

☆2024年度近畿アグリハイテク公開セミナー「健康な土をつくる～ミミズが教えてくれること～」

日時：令和7年2月21日（金）14:00～16:00

場所：キャンパスプラザ京都4階第3講義室（京都市下京区）

形態：ハイブリッド開催

詳細はこちら▼<https://agri-renkei.jp/2024/11/14/6599/>

.....

### 3. 2024年度の競争的研究資金について

#### 【研究開発関連】

##### ■省庁等

☆NEDO：「バイオものづくり革命推進事業（第3回公募）」

☆JST：「e-ASIA 共同研究プログラム令和7年度採択「代替エネルギー」領域、「防災」領域共同研究課題募集」

##### ■民間等

☆公益財団法人タカノ農芸化学研究助成財団：「2025年度研究助成」

☆公益社団法人新化学技術推進協会：「第14回新化学技術研究奨励賞」

2024年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧ください。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

### 4. その他の情報

#### (1) 新技術情報

☆農産関係

水稻新品種「やわらまる」の育成とその特徴を活かした米粉即席麺の開発

— 湯戻し時間を短縮した新しい米粉即席麺の普及に貢献 —

農研機構は米粉即席麺への適性を持つ新品種「やわらまる」を育成し、小林生麺株式会社と共同で、米粉即席麺の課題であった湯戻し時間を、従来の製法と比較して約3分短縮する技術を開発しました。この技術は、米デンプンが低温で糊化する新品種「やわらまる」の特徴を活かすことによって可能となりました。現在、グルテンを含まない即席麺として小林生麺株式会社が受注を開始しています。今後、同技術による国産米粉使用のカップ麺を開発し、輸出も含め広く普及することを目指します。

▽詳細はこちらから▽

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nfri/166733.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nfri/166733.html)

☆食品関係

醤油の製造環境には耐塩性乳菌 *Tetragenococcus halophilus* が棲みついでおり、仕込みの際に諸味へ混入して増殖し、味形成に寄与しています。この製造環境に由来する乳酸菌は野生乳酸菌と呼ばれ、性質異なる多様な菌株で構成されています。その一部はヒスタミンやチラミン（以下、アミン）生成能を有しており、醸造中に蓄積することがあります。アミンは醤油品質に悪影響を及ぼすため、低減化が望まれています。アミン低減化に向けた当センターの取り組みを紹介します。

あいち産業科学技術総合センター食品工業技術センターニュース 2024年12月号

<https://www.aichi-inst.jp/shokuhin/>

(2)その他

☆2024年農業技術10大ニュースの選定について

この1年間に新聞記事となった民間企業、大学、公立試験研究機関及び国立研究開発法人の農林水産研究成果のうち、内容に優れるとともに社会的関心が高いと考えられる成果10課題を農業技術クラブ（農業関係専門紙・誌など30社加盟）の加盟会員による投票を得て選定しました。

農林水産技術会議 <https://www.affrc.maff.go.jp>

.....

編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年中は、NPO法人東海生研の諸活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。本年も東海地域における産学官連携支援に邁進し、地域のネットワークの形成、競争的資金獲得、農林水産業・食品産業における研究成果の実用化・事業化に向け、鋭意、活動を進めて参りますので、ご協力の程どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録 (無料) ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2025年2月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン ～第242号

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

1. 2024年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

個別相談について

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会の個別相談は日常的に実施しています。個別相談では、競争的研究資金の獲得支援（共同研究機関の紹介、提案内容の検討、提案書のブラッシュアップ）、事業化支援などを行っています。

（連絡先）

事務局長 岩佐 E-mail:npo-tokai\*ab.auone-net.jp（\*を@に書き換えてください）

電話：052-789-4586

.....

2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

☆2025年フラワーバレンタインのイベント情報

～ 大切な方に花を贈ろう ～

東海農政局ホームページでは、東海地域におけるフラワーバレンタインのイベントをお知らせしています。

東海農政局ホームページ フラワーバレンタイン

<https://www.maff.go.jp/tokai/seisan/engei/hana/fv/index.html#valentine>

.....

3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆生物系特定産業技術研究支援センターより1月24日に「令和7年度オープンイノベーション研究・実用化推進事業」の公募予告が発表されました。公募期間は1月下旬から約1か月の予定です。

<https://www.naro.go.jp/laboratory/brain/open-innovation/news/2024/167554.html>

☆「令和7年度 みどりの食料システム戦略実現技術開発・社会実装促進事業(委託プロジェクト研究)」の公募が開始されました。公募期間は1月17日～2月28日です。

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/250117.html>

☆2024年度近畿アグリハイテク公開セミナー「健康な土をつくる～ミミズが教えてくれること～」

日時：令和7年2月21日（金）14:00～16:00

場所：キャンパスプラザ京都4階第3講義室（京都府京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939）

形態：ハイブリッド開催

内容：<https://agri-renkei.jp/2024/11/14/6599/>

4. 2024年度の競争的研究資金について

【研究開発関連】

■省庁等

☆農林水産省（技術会議事務局）：「令和7年度 みどりの食料システム戦略実現技術発・社会実装促進事業（委託プロジェクト研究）」

☆水産庁：「令和7年度豊かな漁場環境推進事業のうち海域特性に応じた赤潮・貧酸素水塊、栄養塩類対策推進事業」

☆水産庁：「令和7年度ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実用化事業」

☆NEDO：「2025年度 NEDO 先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム及びフロンティア育成事業」

■民間等

☆公益財団法人 荏原 畠山記念文化財団：「2025年度研究助成」

☆一般財団法人東洋水産財団：「2025年度学術奨励研究」

2025年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧ください。<https://www.biotech-tokai.jp/>

5. その他の情報

(1)新技術情報

☆食品関係

乳酸菌は、ヨーグルトやチーズといった発酵乳製品をはじめ、漬物、日本酒、味噌、醤油、ドライソーセージなど、幅広い発酵食品の製造に利用されています。近年、乳酸菌などの発酵微生物と腸内環境を介した健康維持に注目が集まり、海外では日本食ブームによる日本産発酵食品の需要が増加しており、国内でも地域ごとに異なる伝統・特徴を生かした発酵食品の価値が再評価されています。また、サイレージ用乳酸菌・微生物資材の開発、腸内細菌研究等、発酵食品製造以外の分野においても乳酸菌への関心が高まっています。しかしながら、使用する乳酸菌の選抜には多大な時間やコストに加え、経験が必要であり、乳酸菌利用産業の発展に向けたボトルネックとなっています。農研機構は乳酸菌株の収集・保管事業を長期に渡り実施しており、公的機関として最大規模となる6000株超の乳酸菌コレクション(NARO 乳酸菌コレクション)を保有しています。

そこで今回、我が国の強みである発酵技術を支援する乳酸菌データ基盤の構築を目指し、これまでに蓄積してきた各乳酸菌株の情報をデータベース化し、菌株の検索と情報閲覧が可能な「農研機構乳酸菌データベース」を公開しました。

URL：<https://lacticbacteria.nfri.naro.go.jp/>

☆野菜関係

農研機構と株式会社ニッスイは、気温が低い時期に収穫したブロッコリーほど、冷凍加工後に解凍した際の組織軟化が大きいことを発見しました。解凍後の組織軟化は食感の低下を引き起こすため、気温の低い時期を避けて収穫することが冷凍ブロッコリーの食感の向上及び品質の安定化につながると考えられます。近年、冷凍野菜の需要は増加し続けています。しかし、野菜類は冷凍によって組織が軟化しやすく、品目によっては解凍後の食感の低下が問題となっています。その一方で、同じ野菜でも品種や生育段階の違いによって、解凍後の食感などの品質が異なることが経験的に知られていますが、その詳細なメカニズム・要因は明らかになっていません。冷凍加工後に軟化しにくい品種や栽培条件などが明らかになれば、冷凍野菜の高品質化につながります。本研究では、冷凍野菜としての需要が多いブロッコリーについて、品種、収穫時のサイズ(花蕾の直径)および収穫時期の違いが冷凍による組織軟化に与える影響を調査しました。その結果、冷凍ブロッコリーの解凍後の軟化は、品種や収穫時のサイズよりも、収穫時期の気温に大きく影響されることが明らかになりました。また、細胞と細胞を結びつける多糖類であるペクチンの組成を分析したところ、気温の低い時期に収穫した秋冬収穫ブロッコリーは気温の高い春収穫ブロッコリーと比べて水溶性ペクチンの割合が高く、細胞同士の結着が弱くなっていることが示唆されました。以上のことから、比較的温暖な時期に収穫したブロッコリー原料は冷凍加工に適しており、組織が軟化しにくい冷凍用ブロッコリーを栽培する際には、収穫が厳冬期(目安として日平均10℃以下)と重ならないような栽培計画を組むことが重要と考えられます。本成果は、冷凍ブロッコリー用に気温を考慮した栽培体系の確立や、冷凍ブロッコリーの食感の向上及び品質の安定化に活用できます。(農研機構研究成果:情報公開日:2023年12月20日)

.....

#### 編集後記

立春を過ぎましたが、今シーズン最強最長の居座り寒波により広い範囲で交通などへの影響がありました。また高値が続いている野菜など農作物の生育が懸念されます。農林水産・食品産業関係では、エネルギー価格の高騰や、生鮮食品や加工食品等の値上げが今後も続きそうです。

さて、当研究会ではいろいろな課題に向き合い、引き続き産学連携支援を基軸として取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録(無料) ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>

2025年3月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン～ 第243号

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*

### 1. 2024年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

個別相談について

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会の個別相談は日常的に実施しています。個別相談では、競争的研究資金の獲得支援（共同研究機関の紹介、提案内容の検討、提案書のブラッシュアップ）、事業化支援などを行っています。

【連絡先】 事務局長 岩佐 E-mail:npo-tokai\*ab.auone-net.jp（\*を@に書き換えてください） 電話：052-789-4586

.....

### 2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

☆2013年に「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されて、世界中でますます注目の高まる和食。豊田市博物館では、バラエティ豊かな標本や資料とともに、科学や歴史などの多角的な視点から紹介する特別展「和食」が開催されています。

開館日時：令和7年4月6日（日曜日）までの月曜日を除く10時00分から17時30分  
（入場は17時00分まで）2月24日（月曜日）は開館

場所：豊田市博物館（愛知県豊田市小坂本町5丁目80）

<https://www.ctv.co.jp/event/washoku2025toyota/>

.....

### 3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆農林水産省が事務局を務めております『「知」の集積と活用の中 産学官連携協議会』は、フードテック官民協議会、TECH HUB YOKOHAMA（横浜市のSU支援拠点）と共に、アグリ・フードテック分野での新しい出会いの創出を狙ったイベント「YOKOHAMA Agri-Food Tech Innovation Summit～テクノロジーが拓くアップサイクルの未来～」を開催します。サーキュラーエコノミー、アップサイクルやフードテックに関心がある企業・自治体・研究機関の方やスタートアップ企業との協業を通じて、新たな資源循環ビジネスを模索している方は是非ご参加ください！ 食品業界・研究関係者以外の方大歓迎！ 現地での様々な分野の方とのネットワーキングをすることで、新たな出会いや発想が生まれること間違いなしです！

■日時：令和7年3月18日（火曜日）18時00分～20時45分

■会場：TECH HUB YOKOHAMA（横浜市西区みなとみらい2丁目2番1号横浜ランドマークタワー敷地内25街区ギャラリー棟） ■主催：「知」の集積と活用の中 産学官連携協議会（農

林水産省)、フードテック官民協議会(農林水産省)、TECH HUB YOKOHAMA ■形式:現地(100名)及びオンライン(150名) ■参加費:無料 ■対象:どなたでもご参加いただけます。

(企業、自治体、支援機関、地域金融機関、研究機関等) ■申込方法・プログラム:

URLよりご確認・お申し込みください。 <https://techhubyokohama250318.peatix.com/>

☆農研機構は「第4回 NARO 食と健康の国際シンポジウム～未来を支える食と農のイノベーション:SDGs 達成に向けた研究展開～」をオンラインで開催します。

SDGs 達成に向けた食と農の先端技術と取り組みについて、国際的な視点で議論します。

オンライン配信の視聴申込受付を2月21日より開始しました。

企業、大学、研究機関、行政の方々など、SDGs 達成に向けた食と農の最新の研究動向と取り組みにご興味のある皆さまのご参加をお待ちしております。

○日時:2025年3月24日(月) 10:30~17:45(日本時間) ○実施方法:オンライン配信

○使用言語:英語(日本語の同時通訳あり) ○定員:2,000名 ○参加費:無料 ○申込方法:

以下の特設ウェブサイトから、申込フォームにてお申し込みください。○申込期限:2025年3月21日(金) 12:00(日本時間)

▽特設ウェブサイト▽ <https://www.naro.go.jp/event/naro-symposium/2025/>

.....

#### 4. 2024年度の競争的研究資金について

##### 【研究開発関連】

##### ■省庁等

☆農林水産省(消費・安全局):「令和7年度 安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業(うち短期課題解決型研究)」

☆JST:「2024(令和6)年度 研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)実装支援(返済型)」

☆JST:「大学発新産業創出基金事業 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム」

##### ■民間等

☆一般財団法人杉山産業化学研究所:「2025年度研究助成」

☆一般財団法人東洋水産財団:「2025年度学術奨励研究」

2025年度の競争的研究資金については東海生研ホームページの「NEWS」欄に最新情報を掲載していますのでご覧ください。 <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

#### 5. その他の情報

##### (1)新技術情報

##### ☆野菜関係

近年、1時間降水量50mm以上の年間発生回数は増加傾向にあり、非常に激しい雨によって、水田裏作で栽培されているレタスでは冠水被害が発生し問題となっています。

そこで当研究所では、冠水によるレタスの生育や土壌への影響を調査するとともに、冠水被

害軽減技術の開発に取り組んでいます。冠水によるレタスの生育への影響を検証した結果、冠水状態となる 時間または生育ステージにより被害程度が異なることが分かりました。冠水時間が長くなるにつれ収穫時の株重も減少する傾向でしたが、定植約 10 日後の時期に 24 時間の冠水となった場合は収穫時の株重に影響はありませんでした。一方、定植約 20 日後の冠水では株重は約 3 割減少しました。これらの結果から、生育初期に冠水状態となっても生産を継続できる可能性が高いことが分かりました。冠水後の土壌を調査した結果、マルチ被覆下の土壌中の無機態窒素が約 8 割溶脱していることが明らかとなり、生育に必要な肥料成分が不足することが示唆されました。今後は、これまでの結果を踏まえて、液肥の追肥など冠水被害軽減技術の開発を進めて参ります。(静岡県農林技術研究所栄養・機能性科)  
<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/index.html>

#### ☆野菜関係

#### 三重県におけるエスニック食材「レモングラス」の栽培および作業特性

三重県鈴鹿地域では 4 月下旬から 5 月末までにレモングラスを定植することで、同年 7 月下旬から 12 月上旬まで葉鞘基部を収穫できる。当年株は 7 月および 8 月の生産が不安定となるが、越冬株を利用することで収量および品質を安定化できる。レモングラスはイネ科オガルカヤ属の多年草で、主にインド東部を原産とする「東インドレモングラス」と西インド諸島やマレーシア等を原産とする「西インドレモングラス」に大別される。そのうち、西インドレモングラス(以下「レモングラス」とする)はアジア・エスニック料理を特徴づける食材の一つとして、タイ料理を代表するスープ「トムヤムクン」の香り付け等に利用される。一方、レモングラスを含むエスニック食材は生鮮品の国内調達が難しいことから、近年、県内で生産流通体制の構築を進める動きがある。そこで、レモングラスの栽培および作業特性を明らかにし、三重県におけるエスニック食材 安定生産技術の構築に貢献する。三重県農業研究所茶業・花植木研究室 花植木研究課

.....

#### 編集後記

寒い日と温かい日が繰り返されて日増しに春の日差しが強く感じられようになってきました。もう間もなく各地で桜の便りが聞かれてくると思います。

本年度も残すところあと 1 か月です。日頃より当研究会の活動にご協力をいただき感謝しております。次年度も引き続きよろしくお願いを致します。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録(無料)のご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>